

## Q 6 文章を書きたがらない子どもには，どう対応したらよいでしょうか

### 子どもの状態

作文や日記を書くことをとても嫌がる。  
文章を書いても，伝えたい内容が伝わりにくい。  
日記で，パターン化された文章しか書けない。  
書いた文章の内容についての質問にうまく答えられない。  
主述関係や5W1Hなどの要素が抜けた文章になる。

### 状態の理解のポイント

- ・ 文字を書くこと自体への苦手意識がある。
- ・ 文章による表現力が弱い。
- ・ 文章をうまく構成できない。
- ・ 「 したから になった。」といったような論理的思考が苦手である。

### 考えられる対応

文字を書くこと自体への抵抗感を示す子どもについてはQ 5 参照。

子どもが自分の話を録音し，自分で再生しながら文章にしていく。

子どもが話したことを，教師が聞き取って文章にし，そのモデルを示すとともに，子ども自身が書く分量を少しずつ増やしていく。

子どもが話していることについて5W1Hを聞き出し，空欄の中を埋めるようにする。(図91)

ゲームを取り入れながら，主語と述語を組み合わせる。(図92)

書く内容を声に出して確認するとともに，抜けている要素を教師が補いながらリハーサルをする。(図93)

体験した出来事などでは，写真やビデオ等を手掛かりにしながら，順序を思い出したり文章に表したりする。

文章のモデルを参考にしながら，自分の場合はどうなるのかを考えて書くようにする。

文章構成の自信をもてるように，書いた文章はできるだけ発表する機会を与え，成功感を味わうようにする。

家庭の会話の中でも5W1Hに関することを意識させるようにし，手紙を書いたり伝言メモを取り入れたりなど，書く機会を設けるようにする。



図91 5W1Hの空欄埋め



図92 主述関係の組合せ



図93 書く内容のリハーサル